

## 令和6年度 福井県立丸岡高等学校定時制 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習支援	a 始業のベルとともに授業に入り、スムーズに学習に取り組めるよう努める。	ベル着を励行し、落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組むことができたと回答した生徒は85%と昨年並みで、目標の90%を達成できなかった。 教職員のベル着に対する自己評価の結果は、「おおむね取り組ませることができた」が6割を占め、目標を達成している。	ベル着に対する教職員の意識は高いが、生徒の取り組み状況と一致していないことが問題点としてあげられる。特に、1年生の中に、「あまり取り組めなかつた」生徒が4名、「全く取り組むことができなかつた」生徒が2名いた。新入生に対しての動機付けが不足していたのではないかと考えられる。オリエンテーションなどでベル着を強調するなどして、授業の開始、終了のメリハリが失われることのないよう注意して取り組んでいく。
	b ICT機器を活用した教材・教え方の工夫や城東スタンダードの活用により、生徒主体のわかりやすい授業をするとともに、成績不振者に対して個別指導を行い、基礎学力の向上に努める。	最後まで授業に興味を持って参加できたと回答した生徒は、80%→83.8%に増加し、目標に達した。また、保護者の授業に対する満足度も83.1%→91.8%と増加し、目標に達している。 また、ICT機器を活用した学習や、観点別評価への取り組みで、基礎学力の定着や、成績不振者に対する適切な支援の面でも、目標基準を達成できている。	I C T機器の利用によって、学習への興味が増し、授業も工夫改善されている。基本的な学力が身についていない生徒の層が大きくなっているので、タブレットを利用した学び直しは効果的で、さらに活用範囲を広げていく。今後も、少人数での指導が不可欠であり、生徒一人ひとりに合わせた授業をつくっていく必要がある。
2 生徒支援	a 交通規則の意義を理解させ遵守させる。時間的な余裕をもって登校できるように家庭との連携を図る。そして全体の遅刻数減少を目指す。	今年度から重点目標を家庭との連携をしながら遅刻回数の減少を図るということに、生徒の登下校時の安全を図り交通規則を遵守させることを加えた。教職員は交通規則を遵守させ遅刻回数の減少を図るが100%であった。生徒は交通規則を守り遅刻することなく登校するが85%と目標を達成した。保護者においても89%と大きく目標を上回ることができた。	生徒の回答は目標を達成したが、15%近くの生徒が交通規則を守り遅刻することなく登校するを心がけていなかったと回答した。高校生の登下校時の交通事故が多発し生命の危険が生じることなどから更なる交通安全に向けての意識向上に努めたい。保護者に対しても協力を要請し、連絡体制の強化を図りたい。来年度も生徒の目標指数を達成できるよう努めたい。 自転車通学生に対しては令和8年度から通学時のヘルメット着用が義務づけられるため、来年度1年間かけて支援を徹底していくたい。
	b 生徒の不適切な言動に対して、速やかにその場で指導し生徒に納得させる。また、定期的にアンケート、面談を実施する。	いじめの発生を防ぐため、教職員は生徒の不適切な言動に対して速やかに指導し情報共有が重要であるということを共通理解し取り組むことができた。来年度も更なる情報共有が必要である。生徒についても他者の気持ちを理解し、不適切な言動を避けるという目標は91%から94%に増加し達成した。保護者も子どもが努力している様子を家庭で確認でき、目標を大きく上回った。86%から93%。今後も生徒の不適切な言動は許さないという共通理解を持ち指導を行っていく必要がある。	教職員の回答は、100%であった。生徒保護者共に目標を大きく上回った。来年度も定期的にアンケートや面談を実施しながら、生徒の様子を把握し、気がかりなことがある場合は速やかに指導を行う。他者に対して不適切な言動を避けるとともに、他者の気持ちを理解し思いやりのある言動を心がけることを目標に、達成できるように工夫していきたい。保護者に対しても学校内の生徒の様子を保護者会などで積極的に伝え、SCやSSWも含めて更なる協力体制を構築していくことが必要である。
3 進路支援	a 進路に関する適性検査や講演会・ガイダンスを通して、自分の進路について考え、就労意欲が高まるよう働きかける。	行事、検査に関しては、ほぼ予定通り実施することができた。その中でも、職業別進路ガイダンスは、ここ数年で少人数での体験型講座を増やすことによって、生徒が主体的に参加する姿が多く見られるようになった。就職ガイダンスや就職サポートセミナーにも該当生徒が積極的に参加した。5年目となる職業講話は、丸岡ロータリークラブの講師の方の尽力で、生徒の仕事に対する知識、意識の向上に良い影響を与えている。生徒にも好評であり、事後の感想も意欲的なものが多い。回答結果においてA+Bの割合の昨年度からの上昇を目指したが、残念ながらほぼ横ばいであった。方向性は変えることなく、地道に取り組み目標達成を目指したい。	現在行っている行事、検査は基本的に継続しながら、生徒の進路、職業への意識・意欲が高まるよう内容の改善に努めたい。生徒の評価が高い、進路ガイダンスや職業講話を継続して実施するとともに、現在も行っている特定の生徒に対する職業体験を早い時期から実施するなど少人数での体験学習に注力し、生徒の意欲の向上に努めたい、また、担任の協力のもと、適切な時期に生徒との面談を行い、生徒が進路を考える機会、環境を整えていきたい。 更に、適性検査や一般常識問題などの内容、実施時期の精選を行い進路実現に必要な知識の定着を図りたい。
	b ハローワークなど関係機関と連携しながら、個々の生徒に応じた進路指導を行う。	就職関係は、概ね予定通りのスケジュールで進めることができた。就職を希望する生徒に対して、担任やハローワーク、産業人材コーディネーターの協力の下、個々の生徒、保護者の希望を重視し、職場見学についてなど適切な指導を行ったが、近年、福祉就労や就労支援を希望する生徒も増加している。進学に関しては、指定校、推薦選抜などの制度を利用して進路先を決定した。試験対策への取り組みは、A+Bの数値が昨年度の75.0%→本年度の77.3%と増加した。今後も継続して取り組みたい。	本校の生徒にとって、就職や進学が間近に迫ってから試験対策を始めて、期日までに必要な学力をつけることは難しい。一、二年次から、一般教養の基礎学力を定着させるため、授業に真面目に取り組み、一般常識問題の演習に力を入れたい。同時に、就職、進学試験には面接が課される場合が多く、キャリア教育の充実および、全教職員による面接指導を継続し、生徒の知識、コミュニケーション力が向上するよう努めたい。
4 教育相談	生徒との日常的な関わりを大切にし、生徒の抱える問題の早期発見に努め、家庭、関係機関、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携により適切に問題解決を図る。	「校内で心の悩みや問題を相談できる」生徒の割合が75%から69%に減少した。特に新入生に対して、日頃から生徒に声を掛け、相談しやすい関係を作ることができるよう、生徒全員を学校全体で見守る学校作りに励まなければならないと考える。SCだけでなく、SSW、養護教諭、病院などとも連携し、役割分担して支援していくことが今後も課題である。 JOYの時間を活用し、専門機関より講師を招聘し、認知症サポートー養成研修、DV防止への理解、法教育等の講演会を企画・運営した。教員以外の大人からの専門家からの話から得た知識を自己の生活に活かそうとする姿が見られた。来年度も継続して実施していきたい。	今年度12月に保護者会前の担任面談週間を設けたことで、教員の生徒理解、相談しやすい環境作りを行うことができた。来年度も継続した取り組みにしたい。担任面談から、問題の未然防止、深刻化を防ぐために、教育相談担当（SC、SSW、養護教諭も含む）と連携する体制作りを整えたい。また、新入生が早く学校生活に適応し、安心で安全な学級づくりを促すため、引き続きSCによる新入生面談を行いたい。 良好な人間関係の構築を目指した授業（JOY）は例年通り、年間を通じ、計画的に実施していく。 外部機関と連携し、教職員に対する校内研修（教育相談、合理的配慮が必要な生徒、特別支援教育に関する課題、通級による指導に関する内容について）を企画・運営していきたい。
5 環境衛生	身の回りの整理整頓と校内の清掃活動が習慣化するように、適切な声かけを行う。また、自己の健康管理の意識向上に取り組む。	今年度もほとんどの生徒が清掃に真面目に取り組んでいる。自分の担当清掃場所に行かず、不真面目な態度を見かけることもあるが、教師の声かけを受けて、再度取り組んでいる。教師の働きかけは十分になされており、また、清掃中に音楽を流すことで、自発的に清掃に向かっている。今年度も目標の85%を達成し、89%の生徒が取り組めていると自己評価している。しかし、生徒の減少により、各清掃場所の担当人数も減っているため、清掃場所が広範囲となり教師の目の行き届かない箇所もあった。教師一人の担当場所も広範囲になっているので、生徒一人ひとりがさらに自発的に清掃に向かうよう指導する必要がある。	生徒の特性や人間関係を担任と連携して確認の上、適切に清掃分担をし、自発的に清掃するよう促す。また、一定の期間状況を見極めて、清掃分担を変更しても良いこととし、清掃監督と連携する。生徒一人ひとりが自発的に清掃に向かうように、各清掃場所での作業内容を明確にし、清掃監督のチェック体制を維持する。また、生活環境を整える良い習慣を身につける意識の醸成に努める。家庭での生徒の取り組みが保護者から見て66%と昨年よりわずかに向上しているものの、低評価であったので生徒には家庭でも学校同様自発的に清掃活動、健康管理に取り組むように指導する。
6 読書支援	「ハートフルタイム」での読書活動や「ハートフルだより」を通して、読書に対する意欲や興味を育成する。	「ハートフルタイム」は毎日の読書習慣をすべての生徒に定着することが第一義である。その意味で「生徒が読書活動に真剣に取り組めている」「生徒は読書活動に真剣に取り組めている」の2項目は、回答結果のA+Bの割合が目標数値を上回り、その成果は上がっている。今後も担任の協力のもと継続して行っていき、この活動が読書習慣の定着を経て、落ち着いた学校生活に繋がることを期待していきたい。	読書習慣が定着することが、生徒が豊かな社会生活を送る要因のひとつと考えている。そのため、現在の「ハートフルタイム」を継続し、更なる読書環境の工夫、読書意欲の喚起や啓発活動を取り組んでいきたい。新聞記事や雑誌などの紙媒体やネットの利用、教科の学習に関連した読書計画、授業時間の図書館の利用などの工夫を行い、豊かな知識と感性を持つ生徒を育成していきたい。